１６年度「ＮＩＥで磨く国語力」№３１

年　組　番　氏名

ひとりカヤックで朝の海をめぐる。ワシやクジラ、クマの親子と出合う。①苔（　　）むした倒木に触れて森の②シンピ（　　）を知る――。写真家星野道夫さんの「森へ」は詩情あふれる旅行記である。彼の文章と写真は近年、小中高校の教科書に数多く③ノ（　　）っている▼ヒグマに襲われて亡くなってから２０年。巡回展「星野道夫の旅」がきょう横浜で始まる。先日、京都の会場を訪れると２０、３０代らしき姿が多かった。「教科書で夫の作品と出会ったと言う方が多くて④ハゲ（　　）まされます」と妻の星野直子さん（４６）▼∧Ａ　　∨高校の教科書にある（１）随想「水の惑星」。氷河の話す声を聴き、森の呼吸に耳を⑤ス（　　）ます。壮大な写真とあいまって読む者を氷河の奥へいざなう▼星野さんをアラスカに導いたのは、東京の古書店で買った写真集だ。先住民の村を空からとらえた米写真家の１枚に魅せられる。名も知らぬ村長に慣れない英文で手紙をしたためた。「写真集で村を見た。訪ねたい」。初めて旅したのは１９歳だった。４３歳で⑥急逝（　　）するまでアラスカを撮り続けた▼彼の作品に人生を突き動かされた若者は何人もいる。直子さんは⑦昨秋（　　）、アラスカで日本人⑧リュウガク（　　）生から「星野さんの写真を見て、こちらの大学で野生動物の⑨カンリ（　　）を学んでいる」と言われたという▼⑩崩（　　）れ落ちる氷河、命うごめく原生林。生と死の循環を描く写真を見ていると、（２）人間の存在がはかなく感じられる。自然の一部にとけこもうとした写真家の作品は、次世代の胸の奥にたしかな響きを残し続けるだろう。

〔２０１６年１０月１９日「天声人語」〕

問一　①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二　次の意味を表す２字熟語を、文中から抜き出そう。

・詩のおもしろみ、おもむき。（　　）

問三　∧Ａ∨にあてはまる接続詞を次から選び、書き入れよう。

・したがって　・けれども　・たとえば　・つまり

問四　次は傍線部（１）の一部である。文中の「無駄な時間」とは何か。∧Ｂ∨にあてはまる２字熟語を、天声人語本文より選んで書き入れよう。

「この森も、かつてはあの氷河に覆われていたのだ。いつのことなのだろう。氷河が後退し、地上にこの土地が現れたのは……。生命のかけらさえもない、氷河が去った後の無機質の大地。しかし自然は、無駄な時間を長く費やしてはいない。いつしか苔類が生え始め、植物遷移の最初のステージが始まっていくのだ。」

〔解答例〕自然の∧Ｂ　　∨に無関係な時間。

問五　「認（　　）めた」の（　）に読みを書き入れよう。なお、この言葉の意味は「書き記した」であり、本文中にはひらがなで表記されている。

問六　傍線部（２）の理由として、最適なものの選択肢の記号を○で囲もう。

ア　人間を超えた能力を持つ動物の生態系に、圧倒されるから。

イ　氷河の話す声や森の呼吸に、自然の無慈悲を感じ取るから。

ウ　人間が自然の循環の一部であることを思い知らされるから。